

2020年度第3回阿波おどり実行委員会 議事録

開催日時 令和2年11月9日(月) 午後3時30分

開催場所 徳島市役所13階 第一研修室

出席者 実行委員6名 徳島県1名 事務局6名

1 開 会

2 議題① 阿波おどりネクストモデル構築事業について

【委員長】

今回、阿波おどり実行委員会を開催したのは、実証イベントを開催することができるのかどうかを中心に審議いただきたいと考えており、円滑な審議に協力いただきたい。

2週間後に開催が迫っている阿波おどりネクストモデル構築事業について、事務局からの資料説明の後、一括で審議を行いたいと思う。

【事務局】

資料1 阿波おどりネクストモデルの開催判断について

資料2 阿波おどりネクストモデル開催準備状況

資料3 阿波おどりネクストモデル構築事業とニューノーマル阿波おどり祭典事業との連携

上記資料について説明。

【委員長】

説明にもあったとおり、現時点で県内にとくしまアラートは発動されておらず、このままの状況であれば予定どおり開催できる見込みとなっている。しかしながら、このところ全国では感染者数が増加してきており、徳島県内でも予断を許さない状況である。感染症に限らず悪天候により中止の可能性もある訳だが、様々な事態を想定し、あらかじめ開催の判断の基準を定めておきたい。また、今回の実証イベントは県からも支援をいただいております、このイベント後も県において様々な取り組みが進められるとの説明であった。これらのことについて意見を伺いたい。

【A委員】

前回の委員会での意見については大部分反映していただいている。自身が阿波おどりの観客になったつもりで入場から退場まで想像してみたところ、トイレが気になりであり、密になるとすればトイレである。特に当日寒い場合は、開場前、開場後に行かれる方が多いと思う。資料のレイアウトでは仮設トイレを設置することとなっているが、配置場

所は「仮設」と記載されているところでよいのか。

【事務局】

仮設トイレの配置場所は「仮設」と記載している場所で考えており、トイレが密になるということは国の方からも指摘されている。お客様は国道側と新町川側の両方に分かれており、国道側に関しては対応可能かと考えているが、新町川側の部分に関しては踊り連の退場ルートや公園利用者の動線の確保も必要となるため、配置場所の最終調整を図っている。

【A委員】

公園内に既存のトイレもあったと思うが、それも使用可能なのか。

【事務局】

使用可能ではあるが、公園の既存トイレは規制エリア外にあるため一度規制から抜けるようになり、再入場という形になってしまう。できれば公園のトイレを使用せずに、仮設トイレで完結するようなレイアウトで調整したい

【A委員】

仮設トイレの個数はどの程度になのか。

【事務局】

仮設トイレの設置数は20基を予定している。

【A委員】

会場内1箇所ですべて20基か、全体で20基なのか。

【事務局】

国道側で10基、新町川側で10基の合計20基を予定している。

【A委員】

設置に関して、3密を避けるための対策は考えているのか。

【事務局】

3密を避けるという点でいうとトイレの設置数という問題になるが、合計20基で考えている。また、例年の阿波おどりであれば和式トイレを設置しているが、今回は洋式トイレとしており、中に消毒シートを設置して感染症対策を徹底していこうと考えている。また、手洗い場やアルコール消毒液等も設置し、消毒の徹底も促していきたい。

【B委員】

今回の阿波おどりの実証イベントについては世間の関心が高い。県内外の知人等から今回のイベントを実施するという事で色々と質問が来ており、思っていた以上に関心が高いと感じたところである。その結果が良くも悪くも目立つことになり、悪い結果になれば阿波おどりそのものに対するイメージが非常に悪くなるということで、慎重に運営していく必要がある。

今日の資料については前回に比べてよく詰められていると思うが、これで満足することなく、色々な角度から検討する必要がある。先ほどトイレに対する意見が出たが、ゴミ

処理について、コロナが流行りだした当初はマスクの捨て方について色々問題があるということが言われていた。観客の入れ替えを行う際にマスクを捨てられる方もいると思う。マスク専用のごみ箱や安全な捨て方、捨てられる物に対して回収して処分する流れを十分検討しておく必要があるが、現在の状況を伺いたい。

また、とくしまアラートや悪天候による開催判断について、県内外からかなりの方が来ていただける見込みなので、突然中止という事態も想定されるため、来られる方について連絡先は把握していると思うので、こういったケースについては中止するという事を事前に周知しておけば混乱がなくて良いと思うので対応をお願いしたい。

アンケートについては、しっかりと実施していただきたい。実証イベントということで、嫌な意見もたくさん聞くということも必要だと考えており、良いところ、悪いところも含めて、しっかり聞いていただきたい。場合によっては、場内でアナウンスして協力を呼びかける、先程の周知メールでも協力を呼びかけていただきたい。たくさんの意見を集めて、それを本番に活かしていけるような形で組み込みたいと思うので、その点をお願いしたい。

開催までは若干日があるので、色々なことを検討しながら、気になった点については事務局に連絡させていただきたいと思うので、対応をいただきたい。

【事務局】

ゴミの処理についてだが、今回のイベントに関して、来場者にはゴミは各自で持ち帰っていただくことをお願いしており、自由に捨てられるゴミ箱というのは設置しない方針で進めている。マスクなども外してそこで捨てるのではなく、会場を出て帰るまでは着けていただくということが原則なので、捨てずに帰っていただくように考えているが、マスクのポイ捨てがあれば当然片づける必要がある。観客の入れ替え時にはベンチシートの清掃なども行うが、捨てられたマスク等がある場合、スタッフが確実に回収を行う。その際にも感染リスクがあるので、スタッフに関してもマスク、フェイスガード、清掃時の手袋の着用というのは徹底したうえで対応したい。来場者にはコロナ対策として、まずはゴミを出さないということを徹底するように呼びかけていきたい。

中止の可能性に関する周知について、委員の意見のとおり来場者のメールアドレスは把握できており、個別に連絡することは可能である。また、アンケートはWEBアンケートであるので、質問事項は随時修正可能である。委員の皆様から意見をいただきながら修正していきたいと考えており、より回答率を高められるように会場内のアナウンス、メールでの呼びかけを十分に行っていくたい。

【B委員】

ゴミについては持ち帰りということで、参加者の数が限定的である今回は可能だと思うが、来年の夏を想定した場合は同じやり方というのは難しいと思う。今回についてはこのやり方が一番安全だと思うが、夏に向けてどうすべきかを今回のイベントが終わってから、しっかり検討する必要があるので、お願いしたい。

【C委員】

直接的ではないが、他県のお祭りの事例があると思うが、そういったところの情報は集約しているのか。

【事務局】

現時点では集約して報告できるほどの情報は集まっていない。

【C委員】

高知県においてよさこいを実施すると聞いているが、どうか。

【事務局】

よさこいも試験的なことを行うと聞いているが、よさこいの事務局と直接の情報交換まではできていないので、随時、情報交換を行っていきたいと考えている。

【委員長】

先程のB委員からのゴミの部分の意見について、資料にあるようなチラシを配布し、ゴミは各自で持ち帰るような形で実施するが、実行委員会ではなく市が補助金を出している部分で、阿波おどりイベントをやられているグループがあり、そちらは屋台を出したりしている。今回に関しては栈敷の運営部分ということが多いと思うが、県の方では屋内イベント、他のグループは屋台の出店を出してというところで、そういったところ連携して情報交換していきたいと考えている。

【D委員】

控室の場所が変更になったということで、その点において感染対策マニュアルの変更が必要になるのではないかと。

また、先ほど質問にあったトイレに関してはマニュアルの中では確か30分に1回、スタッフが必ず消毒をする。そしてゴミに関しても1人が責任を持って廃棄まで行うというマニュアルになっているが配置ができていないので、その辺りも徹底していただきたい。特に室内の控室について、マニュアルでは30分に1回の換気を行い、どうしても寒いときには窓を10cmから20cm開けておくとのあるので、そういったところも踊り連やそこに配置されるスタッフに徹底していただきたい。また、控室でのゴミで出てくるゴミについても、開催までにしっかりと詰めていくようお願いしたい。

【事務局】

控室について、感染症対策マニュアルでは換気の良い広い控室を確保し、すべての者について入室前の検温と手指消毒を徹底するということがマニュアルに記載している。

控室については非常に対応が難しかったところである。小さく分けた方がよいのか、大きく確保した方がよいのか、また、演舞場からの距離という問題もあるため、そう遠いところに控室を確保するわけにもいかない。そういったことで、ここに至るまでに様々な控室について検討を行った。

踊り連との協議の中でも、控室がバラバラになった場合にその管理はどうするのか、控室に関係のない第三者が立ち入ってきたらどうするのかという意見も出たが、あわぎん

ホールのワンフロアを貸し切ることができ、出演者と第三者が控室において触れ合うことは防ぐことができるようになった。

また、今回出演のプログラムは1公演10枠程度を想定しているのので、それぞれの枠に出演する連員自身も必要以上に控室の中で触れ合わない方が良いという考え方もある。

さらにおどり団体からは、1部と2部の間で昼食を挟むので、ここもどうするかということも非常に難しい問題だという指摘があったが、協会所属連については控室での昼食は控えたいという申し出があった。開催期間中にマスクを外して踊り子同士で感染リスクが高まる行動は厳に慎みたいという提案もあったので、そこは十分踊り団体の方とも連携をとって進めていきたい。

【B委員】

前回の実行委員会でも色々な意見、情報収集をお願いしたと思うが、今回、国の支援事業に採択されたところについて、その団体の独自のやり方を含めて運営していくと思う。阿波おどりと同じような屋外型イベントで、札幌雪まつり、天神祭り、京都祇園祭などの情報や初詣の関係など色々な取り組みがこれから行われていくと思うので、そういったところの情報をしっかりと集めていただき、報告をいただきたい。

【事務局】

準備させていただく。

【E委員】

今回のイベントを行うにあたっての心構えとして当然持っていると思うが、観客、踊り手、スタッフ、この中に感染している人が必ずいるという前提で準備いただきたい。感染している方がいたとしても大きなクラスターが発生しないという体制にさせていただくように努めていただきたい。

また、会場レイアウトについて、出口付近の遊具設置場所が規制区域外になっている。県管理の土地で自由にできないと思うが、ここは随分混雑すると思うので、ここも規制できるように再度管理者に協議いただきたい。

【事務局】

事務局で観光庁のオンラインセミナーを随時受けており、その中で観光庁の専門家も感染者がいるということを前提に考えるべきであり、無症状の感染者というのは絶対見抜けないと言われている。E委員の意見のとおり、感染者がいたとしても感染拡大しない対策を徹底する必要があるのので、体調不良、発熱がある方の入場をお断りすることは大前提である。また、ソーシャルディスタンスの確保というのが一番大事であり、国の指導もそういった考えに基づいているので、十分対応を考えていきたい。

公園の遊具部分については公園管理者と協議をさせていただいたが、遊具自体の使用を規制することは認められないという回答になっている。遊具の使用目的ではなく、阿波おどりを見たいという方が遊具に上り、密集しているという状態であれば排除しても良いとは言われているが、上ってしまった方を排除するのは難しいところがあるので、覗け

ないような形が取れないか費用面を含めて調整を行っているところである。

【C委員】

公園の遊具は撮影する人が上ることが多い。

【事務局】

遊具付近は写真を撮るには絶好のポジションであるので、何らかの対策は必要であろうという認識はしている。

【委員長】

当日まで状況が変わっていくことも想定されるが、随時事務局より報告をさせていただきたいと思うので、引き続き協力をお願いしたい。

本日出席いただいている、徳島県の方にも意見を伺いたいと思う。

【徳島県職員】

阿波おどりネクストモデル構築事業について、委員の皆様の論議を経て開催の運びとなりましたことは誠に縁深いことと感じている。県内の感染者数は現在、小康状態になっているが、県外に目を向けると東京、大阪はもとより北海道、神奈川、愛知など増加傾向であり、予断を許さない状況と考えている。そういった WITH コロナの中で新しい阿波おどりの実証を行い、ノウハウを蓄積して来年、徳島市の阿波おどりを初めとして、県内の阿波おどり開催に結び付けていくということが非常に重要であると考えており、徳島県としても共催という形で協力させていただければと考えている。

また、徳島県においても12月5日、6日アスティとくしまにおいて、屋内での実証ということでニューノーマル阿波おどりの祭典を開催したいと考えており、阿波おどりネクストモデル構築事業とニューノーマル阿波おどりの祭典事業で連携し、11月下旬から12月上旬にかけて徳島と言えば阿波おどり、阿波おどりと言えば徳島、この関連付け、タグ付けをしっかりと行い、県内外そして国外の方にもしっかりと発信していきたいので協力いただきたいと考えている。

また、B委員から出された、中止の判断があった時は事前に来場者に対して周知できるようにという意見については同意見である。全国的に見てもリアルなイベントは開催できていない。この前にマチアソビについては、チャレンジマチアソビが土曜日から始まっている。あわぎんホールで声優のトークショーを含むイベントを開催したが、声優の方々は来県していただく訳にはいけないので、リモートという形で会場にファンの方々が集まっていた。リアルで集まるのには限界がある中で、このネクストモデル事業に集まっていただけの方々になるので、できるだけ迷惑がかからないように事前周知に努めていただきたい。

E委員から出された、感染者がいる前提で物事を考えるべきという意見についても同意見である。ニューノーマル阿波おどりの祭典についても、来場者、スタッフの中に感染者がいるかもしれないという前提でもクラスターを発生させない、安全安心な新しい阿波おどりを実証することが一番大事である。その部分に十分に意を用いてイベントを開

催できたらと考えている。そういったところで、この事業と県の事業を共に連携しながら成功に持っていきたいと考えている。

【委員長】

これはチャレンジングな取り組みであり、阿波おどりにおいても県市協調で取り組んでいきたいと思っている。委員の皆様からのいただいた意見もついても事務局と共に留意しながら、安心安全な阿波おどりを日本全国、そして世界に発信していきたいと思うので、引き続き協力をお願いしたい。

以上をもって、2020年度第3回阿波おどり実行委員会を終了する。